特集 幕末・明治維新と南薩の海

平成30年は，明治維新から150年目の節目の年です。幕末の頃，海は南薩地域の産業を活気づけた一方，異国船が入港し，異国からの脅威を受ける場所でもありました。本号では，幕末から明治維新にかけて当時の鹿児島の経済を力強く支えた「南薩の海」に注目してご紹介します。

南薩の海運業者たち

▲第8代濵﨑太平次像（太平次公園）

第8代濵﨑太平次（1814年～1863年）

文化11年（1814）に生まれ，若くして商才を発揮した第8代濵﨑太平次は，海運業で薩摩藩の財政再建を支え，明治維新の実現に貢献した人物です。

14歳で琉球に渡り，ここを拠点に海運業の世界に入りました。34隻もの船を有し，この船の規模・数は当時の日本でも最大クラスの船団でした。飢饉の際には幾度となく自身の蔵の米を施し，人々に感謝されました。

濵﨑家宅は，島津斉彬が，第11代薩摩藩主に就任した直後，長期間滞在した場所であり，西郷隆盛も何度も訪問したと伝えられています。

▲指宿市指定文化財「第8代濵﨑太平次正房墓」

河野覚兵衛家

河野家は江戸時代，薩摩藩の御用海商として活躍した山川の豪商で，代々「覚兵衛」を名乗る家柄でした。

第7代河野覚兵衛は，第10代薩摩藩主島津斉興と家老調所広郷が藩の財政改革を行った際，奄美大島や琉球などから得た黒砂糖を現在の大阪方面に運び「内海の船は減っても河野の潮は引かない」と言われるほどの巨万の富を築きました。河野家の船は奄美大島へ派遣される役人を運ぶのにも使われ，安政5年（1858），西郷隆盛が奄美大島龍郷に潜居を命じられた際も，河野家の船で山川から島へ渡ったと伝えられています。

▲河野覚兵衛屋敷跡（指宿市山川入船町）

枕崎の鰹漁業者

枕崎市誌によると，鰹漁業の漁師町であった枕崎には，森勇左衛門，寺田強左衛門などの船主*がいたと言われており，釣子*（船子）の生活費を援助している船主もいたとのことです。

*船主･･･船の持ち主　*釣子･･･雇われて乗り組む漁民のこと

大崎（南さつま市加世田唐仁原）の海運業者

▲「丁子屋の石蔵」は，国登録有形文化財に登録されています。

明治維新の頃，新川港のあった大崎（南さつま市加世田唐仁原）は，南薩で有数の商業地でした。大崎には丁子屋，森田商店，小田店，丸野店といった4つの大きな海運業者があり，賑わっていました。

現在，大崎には海運業のゆかりの地として，丁子屋には国登録有形文化財の石蔵が，また，吹上浜海浜公園のサンセットブリッジの近くには新川港築港記念碑が，さらには，商業の守り神として大崎の商人たちが建立した八坂神社が残っています。

▲丁子屋の石蔵

▲新川港築港記念碑

▲八坂神社

仲覚兵衛（1715年～1800年）

仲覚兵衛は江戸中期，獣骨が肥料として効果があることを発見し，獣骨肥料を用いた菜種栽培の基礎を築いた人物です。

仲覚兵衛が発見した獣骨肥料は，幕末期には公共事業化され獣骨肥料の収集は海運業者に委託し，獣骨を水車によって骨粉にした後，知覧や加世田などの骨粉配給所で配給していました。

明治期になると菜種は，石垣（南九州市頴娃町）の輸出の半分以上を占める南薩の一大産業になりました。

▲大野岳と菜の花

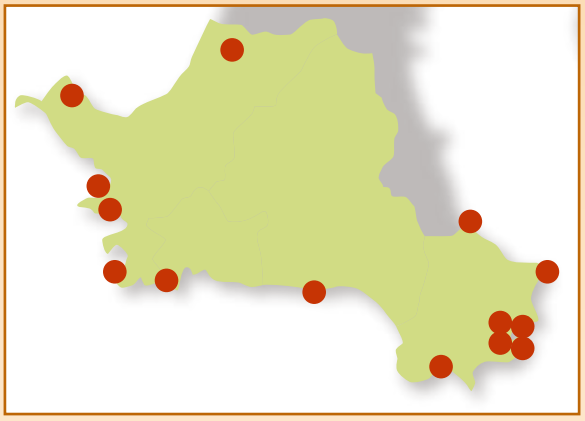
▲仲覚兵衛生誕地（南九州市知覧町）

▲仲覚兵衛生誕地発掘調査の様子

▲骨粉水車跡（南九州市知覧町）

異国からの脅威

天保8年(1837),アメリカ商船モリソン号がマカオで保護された日本人漂流民7名の送還と通商交渉のため山川に現れました。モリソン号の艦長は第10代薩摩藩主島津斉興に書簡を出しましたが,藩は幕府の命令「異国船打払令」に従い砲撃し,この船を追い払いました。世に言う「モリソン号事件」です。「南薩の海」は,「モリソン号事件」や当時の砲台配置図からも,異国からの脅威にさらされていたことがうかがえます。



▲砲台配置図場所(薩藩軍史より)
(島津斉興～忠義の時代)

▲五人番跡(指宿市十二町)

指宿市十二町大渡に設置された遠見番所は,役人を5人置いたことから「五人番」と呼ばれていました。「モリソン号事件」以降,薩摩藩領内に度々外国船が接近したことから,藩内の要所に砲台が置かれました。特に山川には砲台が集中しており,「五人番」・「津口番所」・「成川」の3か所に4基の砲台が置かれたのです。薩英戦争後,島津久光は直接山川に赴き,過去の外国船の停泊位置を基に砲台を配置し,異国からの脅威に備えました。

南薩の砲台跡

※ 現在,位置が確定されない,
もしくは調査中の場所もございます。

▲枕崎砲台跡(枕崎市)

▲久志砲台跡(南さつま市)

▲知覧塩屋砲台跡(南九州市)

▲頴娃別府砲台跡(南九州市)

▲松ヶ浦砲台跡(南九州市)

【取材協力】枕崎市総務課,指宿市考古博物館 時遊館 COCCOはしむれ,南さつま市生涯学習課,南九州市教育委員会
【画像提供】鹿児島県世界文化遺産課,南九州市商工観光課,南九州市教育委員会

詳しく知りたい方は,
右記問合せ先まで
ご連絡ください!

枕崎市総務課	0993-72-1111
指宿市考古博物館 時遊館 COCCOはしむれ	0993-23-5100
南さつま市生涯学習課	0993-53-2111
南九州市教育委員会	0993-23-5100

南薩の海の産業は今

南薩地域において，海の産業は明治維新期に限らず，現在も欠かせない産業です。現在，南薩地域で魚の消費促進に取り組む山川漁業協同組合の川畑友和さんと，鰹節の流通促進に取り組む枕崎水産加工業協同組合の小湊芳洋さんに，お話を伺いました。

山川漁業協同組合
青年部長　川畑 友和 さん

漁業が活性化するためには，生産者と消費者の連携が重要だと思います。そこで，山川漁業協同組合青年部では，消費者が海や魚に興味を持ってもらう活動を行っています。例えば，一尾丸々購入することが少なくなった今の食卓事情を鑑み，旅館の女将を呼んで切り身の盛り付け方教室を開催しています。また，山川の小学生を実際に海へ連れて行き，真鯛とひらめの放流やアマモ*の植え付けを行っています。このことは，海の環境保全のためでもあるとともに，子どもたちに海や魚に親しんでもらうことが一番の目的です。

私は海が好きで漁師になりました。この海と魚を次の世代に残すことができるような，そして，食卓に旬の魚を並べてみようと思ってもらえる取組を，今後も続けていきたいです。

*アマモ･･･種子植物である海草類

▲真鯛の放流の様子

▲アマモの植え付けの様子

枕崎水産加工業協同組合
参事　小湊 芳洋 さん

枕崎水産加工業協同組合は，鰹節の地域ブランド化や海外でのブランド構築等の取組が認められ，今年４月に「知財功労賞 特許長官表彰」をいただきました。これからも国内はもとより，海外へ攻める鰹節を目指していきます。さらに，当組合では若手の人材育成にも努めています。明治維新で活躍した方々は，海外を知り，日本の近代化に貢献しました。それと同様，鰹節産業の発展のため，若手の青年会と鰹節加工場のあるフランスや鰹の集積地タイを訪ね，海外の市場などを学んでもらいます。まさに「鰹節維新」です！

また，同事業の取組として，フランスで枕崎市の酒造会社やお茶業界と一緒になり，鰹節･焼酎･お茶の展示を行い，「オール枕崎」で枕崎市の基幹産業を盛り上げてきました。今後も業種の枠を越え，地域の活性化に繋げていきたいです。

▲フランスの鰹節加工場視察の様子

▲フランスでの販売会の様子